社会科通信（木部中０７入学生）

ピース

第6号

２００９．０９．２４

私の近未来～正規雇用とフリーター～Ⅰ

現在の労働環境について考えてきました。教科書では「労働基準法」などについて記載されたわずかに２ページ（１時間程度）の内容ですが、昨今の労働環境を考えた時、みんなに「ある程度の情報を提供しておいた方がいいのではないか」との思いから５時間を配当しました。考えるのは10 年後の自分の姿、特に「働く」自分の姿とその環境についてでした。というのも、近年のこの国の労働者、とりわけ若年層を取り巻く環境は、実に過酷なものとなっているからです。正規雇用は 1997 年からの５年間で約 317 万人減少し、逆に非正規雇用（いわゆるフリーター等）は同じ５年間で約 331 万人増加しているのです。特に若者の２人に１人はフリーターというデータもあり、事態は深刻です。人件費を抑制したい企業の思惑があるからですが、実際に 15 歳～34 歳の平均年収を比較した場合、正規雇用が約 384 万円なのに対し、フリーターは 119 万円です。フリーターは基本的に昇級がありませんので、生涯年収で比較するとさらにその差は拡大します。収入が低ければ、未婚率や第１子の出産年齢も高くなるのは必然で、少子化がよりいっそう進むことにもなります。また、この平均年収から試算した納税額は、正規雇用が約 65 万円なのに対し、フリーターは約 24 万円となり、このこともまたこの国の社会基盤を揺るがしかねません。１度ドロップアウトすると這い上がりにくいとされるフリーターですが、中高年化も含めて由々しき問題となってきています。なお、フリーターについては、内閣府の定義を踏襲しました。

労働者は働きたくても働けなくて、働きすぎて命を失っていくことがあり、不公平だと思いました。フリーターよりも正規雇用がいいと思っていたけど、正規雇用も怖くなりました。どっちがよりよいのかわかりません。また税収が減ったり、少子化が進んだりして、日本は大丈夫なのかと思いました。企業側と労働者側が対等な立場で、労働者がそれなりの賃金をもらえる公平な世の中になってほしいと思いました。

明日に架ける 人口減少時代 ●●6

第3部「産まない、産めないの」

「甘かった」胸よぎる後悔

「契約は更新しません」。都内に住む西本隆司(33)は五月上旬、突然アルバイト先のゲーム会社に言い渡された。六十人いた同じ部署のバイト八割に対する一気のリストラ。「また仕事を探さないと…」。そう考えると気持ちが重くなった。

十年前から玲子(43)と付き合い、今は同居中。だが収入が少なく、仕事も不安定なため結婚に踏み切れないでいる。「いずれはほしい」と思っていた子供もあきらめた。

「甘かった。バイトでいいやって就職を先送りにして」ときまじめな口調で自責の念を吐いた。

小さいときからのゲーム好き。弁護士を目指して難関私大の法学部に進んだが「口下手の自分には向いていない」と目標をゲーム会社に切り替えた。三社ほど受けたものの採用されなかった。

「目標を決めると、それしか見えないタイプ」と自己分析する。卒業後に「とりあえず収入を」と選んだバイトもゲーム会社。仕事があるときはいいが、少ないと月収は十万円に届かず、一年ほどで辞めた。

ゲーム攻略本のライターになったのは四年前。一カ月以上も休みなく働き、締め切り前は会社に泊まり込んだ。それだけ働いても月収は十五万円ほど。あまりの忙しさで疲れ、年齢が上がるほど状況は厳しくなる。

当面の目標は「定職に就いて結婚」。インターネットの求人サイトで仕事を探し、スーツを着込んで面接に回る隆司だが、採用通知はなかなか来ない。「これからどうなるの、おれ」。そんな不安が込み上げてくる。

（文中敬称略）

新婚カップルを遠くから祝福（写真は記事の内容と関係ありません）

時代、後悔が胸をよぎる。

厚生労働省によると二〇〇四年、十五―三十四歳ではフリーターは労働力人口の十人に一人に当たる二百十三万人で一九九二年の倍以上に。うち46%は二十五―三十四歳だ。背景には若者の職業意識の変化と同時に、人件費の抑制を図って急速に「非正社員化」を進める企業側の事情もある。

「一度ドロップアウトすると、なかなかはい上がれない」と隆司。正社員の求人自体が減り、軌道修正しようとしても容易に「脱出」できない構造だ。年齢が上がるほど状況は厳しくなる。

就いて結婚」。インターネットの求人サイトで仕事を探し、スーツを着込んで面接に回る隆司だが、採用通知はなかなか来ない。「これからどうなるの、おれ」。そんな不安が込み上げてくる。

（文中敬称略）

フリーターと結婚・出産　樋口美雄慶大教授らが、学校卒業2年後の時点でフリーター経験者だった人を比較すると、正社員だった人たちに比べ結婚率が低く、未婚年齢はその後の所得が低く、第1子の出産年齢も高かった。

◇ご意見、ご感想をお寄せください。連絡先を明記の上、手紙かファクス（0852-32-3520）、Eメール（sanin@sanin-chuo.co.jp）で「明日に架ける人口減少時代」係まで。

山陰中央新報（２００５．８．１６）